



# 一歩 みんなのIPPO

令和2年 7月27日(月)  
四季が丘小学校 研究推進便り

7月16日(木)に、広島県教育委員会義務教育指導課の立田晃主任指導主事、安達裕指導主事、広島県西部教育事務所の小西宏明指導主事、廿日市市教育委員会の金本旭史指導主事をお迎えし、学力フォローアップ校事業第2回授業研究会を行いました。

今回は第3学年の国語科「ほけんだよりを読みくらべよう」の研究授業をもとに課題の大きな児童への手立てや支援のあり方を共有することができました。

つまずきの要因を明らかにするために、さまざまな問題に取り組ませ、見えてきた課題の大きな児童への手立てや支援として、教材文の分かち書きプリントや「キーワード見つけカード」、「まとめるくんチャート」、「読みくらべくん」などを用意し、児童自身に意思決定させながら活用しました。また、手立てや支援だけでなく、授業中に散りばめられた小田紫先生のあたたかいまなざしや声かけは、自己肯定感が高まるしかけとなり、「気になるあの子の主体的な学び」を実現できた授業となっていました。



## 小田紫先生の授業からの学び ～授業改善に向けて取り組むこと～

### (若手の先生より)

・間違えても大丈夫だという空気がクラスの中にあり、小田紫先生のフォローもとても安心感があるものだった。授業の中で誰もが発言しやすいような声かけやお互いを認め合う空気をつくっていききたい。

・小田紫先生のように肯定的な声かけ(やりやすいやり方でいいよ。など)や一人一人の違いを認める声かけを意識し、安心して授業に参加できるようにしていきたいです。児童のつまずきをもう一度ていねいに見直したいです。

### (中堅の先生より)

・「先生が汗をかいたら子どもは応えてくれる」の言葉、心にしみました。

・児童の学力向上のために、つまずきの要因を分析したり、手立て(ワークシート)を考えたりして授業に臨みたい。安心して学べる学級づくりも大切だと思うので、日々の肯定的な声かけや成功体験(できた!わかった!)の機会を増やしていきたい。

### (ベテランの先生より)

・ありがたいことに今年度は、1, 2, 3, 5, 6年の教科書で学習しているので、同じ時期に同じ分野の単元が並んでいることがわかります。学年の系統性も比べることができるので、キーワードについての学びの進化を実践していきたいと思います。




## ～学力フォローアップ校事業3年目(令和2年度)の取組の重点について～


- ① これまでの取組や蓄積した実践をもとにした日頃の授業改善をさらに進める。

 研究内容が日々の授業や取組に生かされるようにしましょう!



- ② これまでの成果と併せて、県内へ広く発信する。

 他校の先生方が「なるほど!そんなことができるのか!うちでもやってみたい!」と思ってもらえるような実践をためていきましょう!

 「これなら、加配なくても実践できる!」と思ってもらえるような補充体制の構築に向けた実践の工夫を考えていきましょう!

他の学校が取り入れたいくなる実践・他の学校が取り入れられる実践の発信をめざして



当日の校内研修の様子が義務教育指導課のFacebookに掲載されることになりました!!

子どもたちの主体的な学びの姿だけでなく、子どもたちの成長を喜び合う教職員の姿が見られたことに評価をさせていただいております。7月28日(火)から閲覧可能とのことです。楽しみですね。

当日の研修後、校長室で今後に向けての協議を行いました。そこで、立田 晃主任指導主事から3点の依頼を受けましたので、共有します。

1 点目は、11月の公開研究会は子どもの笑顔がいっぱいの公開にしてほしいということです。一人一人の子どもの学び方に寄り添いながら、「できた!わかった!」という成功体験を積み重ね、子どもも私たちも笑顔でいられる時間になるよう、組織的・計画的に準備を進めていきましょう。

2 点目は、フォローアップ勉強会でがんばる子どもたちとそれを支え、励ます先生や保護者の生の声をしっかり集めてまとめておいてほしいということです。連絡帳のコメントや家庭学習がんばりカード等のコピーもテスト等と一緒にファイリングをお願いします。

3 点目は、四季が丘小学校のストーリーのある校内研修の在り方・進め方を中学校の先生方と共有してほしいということです。本校の校内研修は、「学校を変える」ことへつなぐことができているというお褒めの言葉をいただきました。本校の取組を中学校の先生方と共有し、一人一人の子どもたちの人生にどうつないでいくかということについて共有できるように、継続的な取組を進めていきましょう。



## 切磋琢磨 (先生方の頑張りを紹介するコーナーです!)

7月20日(月)に、初任者の大熊先生と2年目の木原先生に参加していただき、ミニ研修を行いました。「授業づくりに欠かせない『お守りノート』は何のために作るのか」という問いに対し、二人は学級の実態をふまえながら、熱い思いを語ってくれました。

次の日の大熊先生の授業には、ミニ研修での学びをいかした様々な工夫がありました。

